

○奈良教育長 教育委員会協議会を開会します。

まず、教育委員会の活動状況について、事務局から報告を求めます。

乾口教育政策課長。

○乾口教育政策課長 教育委員の活動について、ご説明いたします。資料をごらんください。

7月1日から7月31日までの活動内容としましては、活動日、活動内容、活動場所、活動出席委員名として記載をしております。

以上、簡単ではございますが、教育委員の活動の説明とさせていただきます。

○奈良教育長 続きまして、委員の活動について、所感の報告をしたいと思います。

それでは、委員を代表して、神田委員から報告をお願いします。

○神田委員 私のほうは、7月24日から31日にかけて、校長研修、教頭研修、園長研修があり、教育委員会委員全員が3日間とも出席しました。講義や演習はカリキュラムマネジメント、言語活動の充実、生徒指導など、今管理職が求められるテーマでありました。どの研修も大学の先生を招聘し、充実した研修でありました。

園長研修の京都大学大学院の大倉教授の研修は、気持ちに寄り添う保護者支援というテーマで、理論と実践を兼ねたわかりやすい講義でありました。内容は、子育て支援のためのあり方の基本、親子のための居場所づくり、障害のある子への保護者への支援、保育の中での保護者支援の4点で、それぞれに具体的なエピソードが紹介され、保育士がどのようにかかわっていけばよいのか、その考察も例にして、主に3歳児前後の子供や保護者支援で、枚方市の公立幼稚園で、本年度から進められている3歳保育や、預かり保育に大変参考になる講義でありました。園長先生方も大変参考になったことと思います。

さて、今年度の全国学力学習状況調査の結果が、7月31日に公表されました。このことと関連して所感を述べたいと思います。

全国的には前年度までと同様に、自分の考えをまとめて書きあらわしたり、複数の資料から傾向などを読み取ったりする問題の正答率が低く、理解力があっても、活用力や表現力などに課題があるということです。

文部科学省は、小学校6年の国語では、自分の考えを明確にし、まとめて書く指導の充実、中学校3年の数学では、問題解決の方法を数学的に説明する活動の充実、中学校3年の英語では、話すこと、書くことの言語活動の充実など、具体的に示し、指導の改善を求めています。

枚方市や各学校の詳細な結果分析は今進められていますが、文部科学省がお茶の水女子大学に委託研究した平成29年度全国学力学習状況調査を活用した専門的な課題分析に関する調査研究が、平成30年3月末に報告されておりまして、そのお茶の水女子大学の耳塚教授が教育雑誌にその概要を掲載されていまして、枚方市の取り組みの参考になればということで紹介します。

この研究は、平成29年度全国学力学習状況調査の追加調査として実施した保護者に対する調査です。無作為に抽出された公立学校における本体調査を受けた児童生徒の保護者、約12万5,000人、小学校757校、中学校530校、計1,337校の結果などを活用し、家庭状況と学力の関係、成果

を上げている学校の取り組みを分析するものです。この保護者調査は平成25年度と同じ、二度目の実施となります。

調査の内容は、保護者の子供への接し方、教育に対する考え方、学校、地域とのかかわり、保護者の行動、経済状況などです。この調査の分析では、家庭の社会経済的背景をあらわす指標として、Socio Economic Status、略してSESを設定しております。SESとは、家庭の経済資本と文化資本の総量を示すと考えればよいということです。SESグループでグループ別に小学校、中学校の国語、算数、数学の学力平均値を見てみますと、小中学校とも、また教科によらず、SESと学力の間に強い関連があるという結果です。小学校6年、中学校3年とも、SESが高いほど正答率が高い。これは平成25年度も同様の結果が見られます。小学校6年、中学校3年とも、SESが高いほど正答率の学力のばらつきが小さく、SESが低くなるほどばらつきが大きい。SESが低くても高学力者の存在が見受けられるというのは、今回、29年度の新たな治見だということです。

ただし、SESが子供の学力を決定づけてしまうというのは言い過ぎであろうと、この耳塚教授は述べられています。

例えば、家庭における保護者の関与のあり方と、学力の関係を検証してみると、幼少時に読み聞かせをした家庭ほど、また新聞を読むことを奨励している家庭ほど、子供の学力は高い傾向が出ています。しかもSESを除去した後も、この関係は残る。このことは保護者の関与のあり方がSESから独立に、子供の学力に影響を与える可能性を示唆していると分析されています。

もう1点、別の角度から、SESの学力への影響力の強さに関係することとして、児童生徒の家庭などにおける学習時間、平日の学校外における学習時間があります。分析から、学力はSES及び学習時間によって形成されており、SESが高いほど、また学習時間が長いほど学力は高いということです。家庭での保護者の関与や、子供自身の学校外学習によって、学力差の緩和が期待できますが、SESの学力に当たる影響は大きいといえるでしょう。これにどう対応するのか。その対策について述べられております。

諸々ありますが、具体的に4点ほど上げられているわけですけど、2点上げておきますと、一つは、学校における教育指導、学校による組織的な取り組み、2点目は、行政による教育条件整理、国・教育委員会による諸条件整理などがあります。

そして、1点目の学校による教育指導、学校教育が何をすべきであるかを考えることを主眼において、統計的な手続によって、継続的に高い成果を上げている学校を発見し、次にそういう学校を対象に定期的に訪問調査を行うことによって、学力差の是正に効果的と考えられる取り組みを抽出されました。ここで継続的に高い成果を上げている学校とは、SESから予想される学力を相当程度上回っている学校を指します。平成25年度、29年度、合計で18校を対象として、校長、教員、教育委員会へのヒアリング調査などが行われました。訪問調査の概要は次のようになっております。

具体的な調査対象は、小中学校と管轄の教育委員会。調査方法は、学校では管理職と教諭2名のインタビュー、国語、算数、数学の授業参観、教育委員会の担当者として教育長、学力向上担当、指導主事などへのインタビュー。調査内容は、小中学校では学力形成に関わる学校の取り組

み、特色ある取り組みとか、学習指導の取り組み、教師個人の学力や学習観、教育委員会では当該学校が5年間継続して高い成果を上げられているという理由などです。

事例研究の結果、高い成果を上げている学校として抽出された学校で、展開されていた取り組みは、驚くほど共通していたということです。効果的と考えられる取り組みは、7点上げられています、そのうちの4点は次のような取り組みです。

①として、家庭学習指導の補充です。その1点目は、宿題プラス自主学習、自分の関心に沿った学習と、弱点を自分で発見している。2点目は、させっ放しではない。必ず読み、手を入れ子供に返す。

②として、管理職のリーダーシップと同僚制の構築、実践的な教員研修です。その1点目は、教科を超えた研究授業の見せ合い。2点目は、1人1授業で、日常的に研究授業。3点目は、授業研究前後の活発な授業研究。

③として、小中の連携教育です。その1点目としては、小中で一貫した学習ルール、学習の構成。2点目は、小学校から学ぶ問題解決の学習など、小中が連携し、系統性を持った指導を図ることが重要。

④として、言語に関する授業規律や学習規律の徹底です。その1点目として、学習規律を前提に対話的な授業。2点目として、課題を明確にする教師の授業力。3点目は、書くこと、話すこと、聞くことを大切にする。4点目は、ノート指導といった取り組みです。

このような取り組みは、一つ一つとってみれば特別でも珍しいことでもないが、成果を上げている学校に顕著であったのが、その①として、徹底性、②として、組織性、③として、総合性で、学校全体が目標を共有して、組織として取り組んでいるということです。そして、そうした取り組みを各学校が可能にするための行政による加配教員の配置などの条件整備が重要であるとまとめられています。

紹介した高い成果を上げている学校の取り組みの特徴は、奈良教育長が就任してから、枚方市教育委員会が平成28年度から取り組んでいることと余りにも共通していましたので驚きました。この国の研究調査の小中学校1,377校のSESと学力スコアの分布図を見ますと、SESから予測される学力を上回っている学校もあります。逆に下がっている学校もあります。今年度の全国学力学習調査の結果分析がされていますが、改善の策は、学力は高い県でも実践され、枚方市がこの3年間進めてきた取り組みを、継続、徹底していくことであると、この報告書は示唆していると改めて思いました。

今年度から、この報告書にある学校訪問のように、希望する学校に学校訪問することを、教育長は校長研修会の講義で話をされました。このことは学校へのソフト面の強い支援となります。それとともに、教員の加配、枚方市独自の生徒指導などの加配等は大きな力となります。効果的に配置し、学校を支援していただきますようお願いしまして、所感といたします。

○奈良教育長 ありがとうございます。

それでは、事務局からの報告案件ですが、案件1について説明をお願いします。

乾口教育政策課長。

○乾口教育政策課長 それでは、案件1、枚方市幼稚園等の利用者負担額等に関する規則の一部改

正について、ご説明いたします。

協議会資料別表の1ページをごらんください。

1. 内容といたしまして、本年10月から国の幼児教育、保育の無償化が実施され、3歳から5歳までの子供の保育料が無償となることから、10月から募集する令和2年度の園児募集に当たり、預かり保育料等の取り扱いについて定めるものでございます。

2. 預かり保育料についてですが、10月からの無償化後の預かり保育料は、保育要件のない1号認定の場合は、利用に応じた預かり保育料の徴収となります。保育料は1時間当たり100円で、17時以降は150円になり、上限額はありません。ただし、無償前から在籍している園児の預かり保育料は、経過措置として、本年度に限り、現行どおり所得に応じた増減額を条件といたします。

また、保育要件があり、教育認定を受けた新2号認定の場合、国基準では利用実態に応じ、月1万1,300円までは無償で、それ以上は有償となりますが、本市では月1万1,300円を超えた預かり保育料についても無償といたします。

3. 実施時期といたしまして、枚方市幼稚園等の利用者負担額等に関する規則の一部改正を行い、施行は10月1日となります。

以上、簡単ではございますが、案件1の説明とさせていただきます。

○奈良教育長 この件について、ご意見、ご質問等ありますか。

ご質問等がないようですので、本件については説明の聴取程度にとどめます。

続きまして、案件2について説明をお願いします。

鴨田教職員課長。

○鴨田教職員課長 続きまして、案件2、叙位・叙勲について、ご説明いたします。

恐れ入ります、机上の差しかえ分、協議会資料、1ページをごらんください。

1. 概要ですが、枚方市立小学校の元校長について、内閣総理大臣から、その功労に対し、叙位・叙勲が行われましたので、報告するものでございます。

2. 内容でございますが、叙位といたしまして、正六位を、枚方市立氷室小学校長、故中西一夫先生、枚方市立菅原東小学校長、故小見山日出人先生が受章されました。

3. その他といたしまして、ご自宅にて伝達を済ませております。

以上、甚だ簡単ではございますが、案件2、叙位・叙勲についての説明とさせていただきます。

○奈良教育長 この件について、ご意見、ご質問等ありますか。

ご質問等がないようですので、本件については説明の聴取程度にとどめます。

それでは、本日の公開とする協議会は、以上となります。